

その16 村野

(平成8年2月1日号—第180号)

羽衣伝説や七夕伝説などのロマンをのせて淀川にたどる天野川の流れ、その流れが初めて枚方と出会うところが村野です。

現在、住居表示で「村野」と名のつく地区は、京阪交野線の村野駅周辺だけですが、村野村は、明治22年に合併して川越村になる以前は、亥田(あるいは犬田、現在の印田)、藤田、釈尊寺をはじめ、茄子作東町や池之宮の一部、星丘、桜丘など、広い範囲を占めていました。

村野村の東側には東高野街道が走り、中央部には天野川が流れ、また磐船街道も走るなど、この地は、交通の要衝であったと考えられます。2つの街道が接する付近には、その昔、犬田城があったとされ、応仁の乱の折には、畠山政長軍と畠山義就軍とがここを舞台に合戦に及んだそうです。

村野のいわばへそに当たる村野本町には、浄土宗光明寺があります。光明寺の開基は不詳ですが、薬師如来座像や恵心僧都[えしんそうず]の作といわれる阿弥陀仏座像などが祭られています。

また、光明寺をさらに北へ行くと、村野神社があります。村野神社は、弘安2年(1279)に片埜神社から分霊されて以来、村野産土神[うぶすながみ]として、光明寺とともに村野の人々の暮らしを見守ってきました。



27 村野神社(村野本町)

かつて、村野神社では1月15日に正月のしめ飾りなどを燃やした「とんど」が行われていました。村人は、「とんど」の火を持ち帰り、小豆粥[あずきがゆ]を炊いて食し、無病息災を願っていました。

「とんど」は、以後その場所を移し、現在では桜丘小学校の校庭で引き継がれています。

村野は、神社や寺を囲む旧家とその周辺を新興住宅が建ち並ぶという形で発展をしてきました。古い伝統を守る姿と、新しいものを積極的に受け入れようとする息吹が強く感じられるまちです。



26 旧村野村高札場
(村野本町)